

認定NPO法人フローレンス

アニュアルレポート 2018

— 15周年特別版 —

ANNUAL REPORT 2018



新しいあたりまえを、すべての親子に。

Florence
認定NPO法人フローレンス

フローレンスは設立15周年。
これからも「新しいあたりまえ」をつくりつづけます。

「子どもが熱を出して保育園に行けず、会社を休んで看病したらクビになった」。2003年、のちにフローレンスを立ち上げる代表理事の駒崎は、ベビーシッターをしていた母親からこんな話を聞き、愕然とします。子どもが病気になるのは当たり前。親が子どもの看病をするのも自然なこと。しかし、「先進国」と呼ばれて久しい日本で、子育てを理由に仕事を諦めなければならない状況は、残念

ながら珍しいことではありませんでした。当時、子どもを産んだ女性の7割が仕事を辞めていました。

「誰もが安心して子育てをすることができ、子育ても親の自由な選択も両立していける社会を作りたい。」そんな思いから、2004年にNPO法人フローレンスが誕生しました。

それから15年、フローレンスは親子の笑顔をさまざまに社会問題を解決するために走り続け、様々な問題に

直面し、新たな解を生み出してきました。子どもが病気のときに、安心して預けられるように、病児保育事業を。深刻な待機児童問題を解決するために、保育園運営事業を。医療的ケアが必要な子どもたちに保育を届けるために、障害児保育事業を。経済的に厳しいご家庭とつながり、支援を届けるために、こども宅食事業を。赤ちゃんの虐待死問題を解決するために、赤ちゃん縁組事業を。現

場で親子ひとりひとりに向き合いながら、こうした問題を行政に訴えかけるソーシャルアクションも行い、法を動かしてきました。

ここまで走り続けることが出来たのは、私達に共感し、いろいろな形で支援し、一緒に問題に取り組んで下さる皆さんがいるからです。フローレンスの挑戦はまだ続きます。どんな親子も、笑顔で暮らせる社会を目指して。

新しいあたりまえ を、これからも。 15年間、ありがとう！

2018年度事業報告会にて 寄付者の皆さんと



15年 のあゆみ

VISION

目指す社会像

みんなで子どもたちを抱きしめ、
子育てとともに何でも挑戦でき、
いろんな家族の笑顔があふれる社会

MISSION

果たす使命

親子の笑顔を
さまたげる
社会問題を解決する

TEAM

私たちの組織

・志の大地に多様性が茂る - 森のように
・たのしんで真剣勝負 - 子どものように
・試行錯誤を全速力で - 開拓者のように

STRATEGY

私たちの戦略

社会問題を事業によって解決する

・社会問題への「小さな解」を事業として生み出す
・政治や行政と共に「小さな解」を政策にし、全国に拡散する
・自らも最良の事業者として、インフラを創造し、最後の一人まで助ける

2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019

フローレンスの起こした主なソーシャルアクション

イクメンプロジェクトに参加。「イクメン」がブーム

休眠預金法案成立に向けた政策提言開始

保育士試験を年1回→年2回へ

休眠預金法案成立

児童扶養手当の金額アップ

子ども虐待防止記者会見と署名運動実施

特定非営利活動法人
内閣府認証取得

病児保育事業

病児保育事業

東京都中央区・江東区にて全国初の共済型・自宅訪問型の病児保育事業「フローレンスの病児保育」を開始



病児保育事業

「寄付によるひとり親支援プラン」運用のための個人寄付会員（サポート隊員）募集開始



病児保育事業

東京都23区全域に病児保育の提供エリアを拡大

みらいの保育園事業

東京都江東区に小規模保育所「おうち保育園」の「のめ」開園



みらいの保育園事業

病児保育事業

障害や慢性疾患がある子どもも預かり可能な、訪問看護つき「発達支援プラン」を開始



小規模保育所が制度化され認可事業へ

みらいの保育園事業

「みんなのみらいをつくる保育園」開園



病児保育事業

江東区にて病児保育拡大を求める記者会見

被災地支援事業

2011年 東日本大震災

被災地からの避難家庭の支援事業「避難家庭一時保育サポート」を開始。
被災地の中高生向け無償学習支援「希望のゼミ」を開始。
福島の子どものための屋内公園「ふくしまインドアパーク 郡山」開園。

障害児保育事業

日本初の医療的ケア児に特化した訪問保育事業「障害児訪問保育アニー」開始

障害児保育事業

改正障害者総合支援法にて初めて「医療的ケア児」の記載

障害児保育事業

障害児保育事業

東京都杉並区に日本初の医療的ケア児専門の保育園「障害児保育園ヘレン」を開園

赤ちゃん縁組事業

妊娠で悩んでいる方の相談窓口「にんしん・養子縁組相談」開設

特別養子縁組あっせん法成立

赤ちゃん縁組事業

フローレンスが取り組むSDGs



*SDGs(持続可能な開発目標)は、2015年9月に「貧困に終止符を打ち、持続可能な未来を追求すること」を掲げて国連総会で採択された世界共通の目標です。2030年までに地球規模の課題を解決するべく、17の目標と、それらを達成するための具体的な169のターゲットが示されています。



東京都より「認定特定非営利活動法人」(認定NPO法人)取得

2015年、フローレンスの病児保育をモデルにした「37.5℃の涙」TVドラマ化

子ども宅食事業

文京区にて「子ども宅食」配送開始

子ども宅食事業





15年目を、
新たなスタート地点に。
より多くの親子の笑顔のために、
共に走りつづけましょう。



代表理事

駒崎 弘樹

僕はフローレンスを立ち上げた時、とても怒って
いました。両親が共働きの場合、子どもが熱を出し
たらどこも預かってくれない。なんて酷い世の中だと。
そんな怒りで動き出したフローレンスですが、この
15年続けてこられたのは、多くの方々が支えてくだ
さったからだと思います。寄付をはじめさまざまなか
たちでご支援くださった方、さらには僕らがサービス
を提供している方からの感謝の言葉にも支えられ
てきました。支えているつもりが、逆に支えられてい
たのです。

日本の子育てはこの15年で良くなってきていると
ころと、まだまだ難しいままのところがあると思います。
前者は男性の育児参画が進み、待機児童問題が改
善されつつあるところ。後者は児童虐待や子どもの
貧困問題、そして子育てを親だけにさせているという
状況です。「親だからあたりまえでしょ?」と言う人が
います。でもそういった圧こそ親を追い詰めていくも
のであり、子どもを追い詰めていくことにも繋がって
いく。子どもは親の子であると同時に、社会の子で
もあるわけですから。困っている人がいれば、社会が
手を差し伸べていくべきだと僕は思います。

ただ世の中の構造や価値観で言えば、そういった
社会からはまだまだほど遠いのが現実です。だからこ
そ我々の役割もあると思っています。例えば、かつて
の法律には“医療的ケア児”という言葉すらありませ
んでした。しかし、制度の狭間で困っている人が実際
にいる。現場にいる我々は、きちんとそのことを政府
に対して言っていく。誰かがそれをやらない限り、構
造は変わっていきません。現場と政府を繋ぐこと、そ
れこそが我々の役目だと思っています。

フローレンスは日本初の訪問型病児保育事業か
ら始まりましたが、事業を続ける中で、たくさんの新
しい課題に出会ってきました。障害児保育事業を始
めたのも、医療的ケア児を育てるお母さんから、「仕
事復帰したいがどの保育園も預かってくれない。助
けて、」といったメッセージが届いたからです。するとつ
い「自分がやらねば!」と動き出してしまいます。誰も
やったことがない領域を切り開いていく仕事は辛い
ことのほうが多く、何度も心が折れそうになりました。
それでも続けてこられたのは、子どもたちが可愛いか
ら。そしてやはり感謝してもらえるから。ある親御さん
から「私を社会に戻してくれてありがとう」と言われた

時は、本当に嬉しくて。自分のやっていることが世の
中のためになっている。そう疑いなく信じられること
は、僕にとってとても大切なことなのです。

今後もフローレンスとしては、声なき声に耳を傾け
つつ、誰もやらないような社会課題の解決に取り組
んでいきたいと考えています。まずはこれが社会課題
だということを世の中に認識してもらい、その解決策
を提案しつつ、制度が出来る後押しをしていく。その
一歩、“0”から“1”をつくり出すことにこそ、僕らの真
価があると思っています。そうしてつくった仕組みが
日本中に広がり、“1”が“100”になって、社会をより
良くすると信じています。

これからは、児童福祉のイノベーターとして、親子
を取り巻くよりディープな福祉課題にどんどんタック
ルしていきます。その新しいチャレンジができるのも、
日頃から共に変革を起こそうとしてくださる皆さんの
熱い志とご支援があつてこそです。支援者、寄付者の
皆さんは、共に社会課題を解決する同志だと思って
います。これからも我々が見たい世界をつくるために、
共に走って行きましょう。

インタビュー：野上瑠美子





2005年からスタートした「病児保育事業」は
2018年度に累計65,000件の病児保育実績を突破、
ひとり親支援実績はのべ1,087名に。

「子どもが熱を出して保育園に行けず、会社を休んで看病したらクビになった」仕事と育児の両立で最も悩むことのひとつに、子どもが病気になったときに預け先がないことが挙げられています。フローレンスは日本初の訪問型・共済型病児保育を事業化。事業開始時には「病児保育」という言葉すら一般的ではありませんでしたが、共働きがあたりまえとなった現在は社会になくてはならないインフラとなってきました。これまでの保育実績

は累計65,000件、ご利用会員数は7,000名を超えます。また、皆さんからの寄付を原資に運営している、月会費・1時間あたりの保育料ともに1,000円(税別)のひとり親支援プランにより、11年間でひとり親家庭のべ1,087名の子どもに病児保育を届けてきました。今後はさらに利用可能エリアを拡大するとともに、スタッフの拡充による受け入れ可能世帯数の増枠を目指します。



2018年度の成果

- 利用可能地域を新たに6エリアで拡大(東京都小平市・東京都稲城市・埼玉県さいたま市大宮区・埼玉県和光市・千葉県習志野市・神奈川県大和市)
- 病児保育室の利用倍率770倍の豊洲に「病児保育室フローレンス豊洲」を開設

[10年後に目指す姿]

- 病児保育を幅広く提供する(訪問型に加え、施設型でも提供する)
- 東京近郊の子育て世帯のインフラとして病児保育が定着している

14年間の
ソーシャル
インパクト



1,087名

ひとり親家庭のお子さん
支援人数(2008年~)



待機児童問題の解決モデルとなった
小規模保育所「おうち保育園」から始まり、
様々な保育現場を運営。
親子の課題に伴走する保育園を目指します。

2010年、待機児童解決のモデルとして小規模保育所「おうち保育園」の開園からスタートした保育園運営事業。2015年に小規模保育所が国の認可事業になってから、小規模認可保育所は2018年までに全国約4,200箇所に広がりました。フローレンスの保育園運営事業では、多様化する親子の課題に伴走するため、2016年度に「一時保育室カムパネルラ」を、2017年度に認可保育所「みんなの未来をつくる保育園」・訪問

型保育の「待機児童レスキュー隊」を開始し、様々な保育の形態に挑戦しています。保育面では、子ども自身が考え行動する力を育むシチズンシップ保育や、障害児保育園ヘレン・障害児訪問保育アニーの園児との交流も実施しています。今後は、シチズンシップ保育の実践を積んでいくとともに、保育現場で親子の困り感を早期に発見し、適切な支援につなげる保育ソーシャルワークへの取り組みにも注力していきます。



9年間の
ソーシャル
インパクト



フローレンスで運営する園の数

19園

小規模認可保育所
全国 4,276 箇所

2018年度の成果

- 保育ソーシャルワーカーを東京に1名・仙台に1名配置
- 「シチズンシップ保育」を体系的に学べる研修の構築

[10年後に目指す姿]

- 保育ソーシャルワークの「体現」と「拡散」
- 「シチズンシップ保育」や「インクルーシブ保育」による保育の質向上



日本初の障害児保育園ヘレン誕生から5年、
障害児訪問保育アニーサービスインから4年。
「自ら育つ力」の可能性を伸ばす、保育・療育の提供を。

きっかけは、Facebookに寄せられた「子どもに重い障害があり、どこも預かってくれない」というメッセージ。当時、東京都全体をみてもフルタイムで預かってくれる場所はありませんでした。フローレンスは2014年に日本初の「医療的ケア児に保育と療育を提供する施設」障害児保育園ヘレンを開園。2015年、医療的ケア児や慢性疾患児を自宅でお預かりし、保育を提供する障害児訪問保育アニーをサービスインしました。これまで、障害児保育園ヘレンでは運営する6園でのべ62名、障害児

訪問保育アニーではのべ44名のお子さんをお預かりしました。また、心身の発達に伴い、医療的ケアが必要なくなり、地域の保育園に転園できたお子さんも。これまでにのべ37名が転園・卒園しました(19年3月末時点)。今後は、医療的ケアがあることを理由に保育が受けられない子どもをゼロにするため、東京・千葉・埼玉・神奈川県1都3県での保育の拡充をめざし、全国の事業者が参入できるよう提言を続けます。



2018年度の成果

- 全国6園目となる障害児保育園ヘレン中村橋開園
- 今年で転園・卒園人数が37名(2019年3月末時点)

[10年後に目指す姿]

- 1都3県全ての医ケア児の保育受け入れ体制を整える
- 障害によって親子の挑戦がさまたげられない社会をつくる

5年間の
ソーシャル
インパクト



106名

これまでに
保育を届けた人数



赤ちゃん縁組

2016年からスタートした赤ちゃん縁組事業。
2018年度には、特別養子縁組あっせん団体として東京都から
認可を受け、モデル事業にも選出されました。

フローレンスの「赤ちゃん縁組事業」は、予期せぬ妊娠に悩む女性の相談に乗る「にんしん・養子縁組相談(無料)」と、実母がやむを得ない事情により養育することができない場合、赤ちゃんを育ての親につなぐ「特別養子縁組」を柱としたモデルです。事業開始からこれまでに1,875件の妊娠に悩む女性の相談に対応し、13組の新しい家族の誕生を支援しました。また、2017年度よ

り開始した、子どもを迎えたいと希望する夫婦を対象とした研修「特別養子縁組入門研修・実践研修」(助成: ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会)も引き続き実施し、特別養子縁組という制度自体を社会に広げる活動も行っています。これからも、赤ちゃんの虐待死を無くすため、政策提言も含めた取り組みを続けていきます。



2018年度の成果

- 約3年で実親・妊娠相談1,875件。13組の養子縁組委託。
- 2018年4月施行の養子縁組あっせん法においても特別養子縁組あっせん団体として東京都から認可
- 厚生労働省・東京都よりモデル事業団体として選出される
- 全国からWEBサイト上で受講できる「特別養子縁組オンライン基礎研修」をスタート

3年間の
ソーシャルインパクト



13組

これまでの縁組成立

[10年後に目指す姿]

- 2025年までに赤ちゃんの虐待死をゼロにする
- すべての子どもが温かい家庭で育っていける社会の実現



行政と民間が連携し、社会課題を解決するプロジェクト。
文京区で実施している事業モデルをベースに全国展開を推進。
親子が困難な状況に陥る前に予防することを目指しています。

こども宅食は、経済的に厳しい状況にあるご家庭に、定期的に食品をお届けする取り組みです。食品のお届けを通じて定期的に連絡を取ることで、親子が直面している課題にいち早く気づき、適切な支援に繋いでいます。東京都文京区では、児童扶養手当を利用しているひとり親家庭や、学用品費や給食費の補助である就学援助などを利用している570世帯に対して、食品をお届けして

ます。行政である文京区と複数のNPO団体、民間企業が協働するコレクティブインパクト*の手法を導入しています。返礼品なしのふるさと納税を財源とする本事業は開始当初より大きな注目を集め、全国各地から視察が相次ぎました。2018年秋には佐賀県を拠点として一般社団法人こども宅食応援団を立ち上げ、こども宅食の実施を検討する団体に向けてノウハウ提供を進めています。

※立場の異なる組織(行政、企業、NPO、財団、有志団体など)が、組織の壁を越えてお互いの強みを出し合い社会的課題の解決を目指すアプローチのこと



2018年度の成果

- 文京区で約570世帯に食品を定期的に提供
- 「一般社団法人こども宅食応援団」発足、各地で立ち上げ支援を開始

2年間の
ソーシャル
インパクト



こども宅食の
全国化

[10年後に目指す姿]

- 親子が抱える課題が重篤化するのを防ぐモデルをつくる
- 全国でこども宅食を行う地域・団体がスムーズに事業を立ち上げ、運営できる環境を整備する

親子領域に関わる、
国内NO.1ソーシャルアクション集団を目指して。
メディア出演や講演・イベント、署名活動や記者発表など
社会の「あたりまえ」を変えていく発信を続け、
既存の制度や常識に切り込んでいます。

フローレンスは、国内の親子に関わる社会問題への「小さな解」を事業として生み出すと同時に、発信や政策提言を積極的に行うソーシャルアクション集団でもあります。これまでに、小規模保育所を認可保育所として法的に位置づけたり、医療的ケア児への支援制度充実を働きかけるなど、国策を動かす成果を残してきました。国内

では痛ましい子どもの虐待問題や、男性の育児コミットをはばむ働き方問題、多様な背景を持つ家庭への環境整備の遅れなど、課題が山積しています。一団体ではできない挑戦ですが、約8,000人(2018年度まで)の寄付者の皆さん、企業の皆さん、支持者の皆さんと共に、「新しいあたりまえを、すべての親子に」届けることを目指します。



2018年度の成果

- 「なくそう! 子どもの虐待プロジェクト2018」では10日で国内10万人の署名を集め、小池都知事、厚生労働大臣に提言。約1ヶ月後、政府が提言内容を含めた「児童虐待防止緊急総合対策」を発表。
- 病児保育利用倍率770倍の豊洲にて「豊洲エリアの病児保育ニーズに関する記者会見」実施。約1ヶ月後、江東区が病児保育予算化を発表。
- 東京マラソン2019チャリティの寄付先団体に初選出され、2019年3月3日、「障害児保育の受け皿拡大」のため、141名のチャリティランナーが東京マラソン2019チャリティに参加。
- 2018年度のメディア露出件数
TV 25件、新聞 88件、WEB89件、雑誌21件、ラジオ4件 全227件
[主な露出先] テレビ朝日:報道ステーション「待機児童対策『企業主導型保育園』の課題」、NHK:おはよう日本「特別養子縁組対象年齢引き上げへ」、TBS:TBS NEWS「結愛ちゃん事件受け10万人署名」、Forbes JAPAN「NEW INNOVATOR 99新しいイノベーション!日本の担い手99選」、産経新聞「保育園で重度障害児ケア 練馬に開園 親の職場復帰に光」、anan NEWS「親を追い詰める周囲の視線...『児童虐待』の裏側」など
- 2018年度の講演件数 50件
- ご支援者向け事業報告会(東京/関西)開催 他各種イベント

[10年後に目指す姿]

- 親子に関わる福祉分野で国内随一の実績と政策提言力を持ち、社会を変える発信を続ける
- 10億円規模のファンドレイジングにより、親子の課題に最速で切り込む

働き方革命事業

働き方改革を団体内で実践、
日本一多様で働きがいのある組織を目指すと共に、
その成功モデルを社会に発信しています。

複雑に多様化する社会の中で、日本の旧来的な働き方は限界を迎えています。私達実践している働き方改革が認められ、2012年から5年連続、GreatPlace to Work 働きがいのある会社ランキングでベストカンパニーにランクインしました。それに慢心せず、年2回の組織内サーベイを通じ広く意見を聞き、人事制度を構築しています。また、保育現場の働き方改革を目指して、

業務改善やITを活用した業務のイノベーションを行い、同志の上に多様な人材が活躍できる組織づくりを実践しています。働き方革命事業部は私達の在り方をもって、650名規模の組織内はもとより、組織内はもとより、日本社会全体の働き方において「新しいあたりまえ」を目指します。



[2018年度の成果]

- 消滅する有給休暇を積立し、治療と仕事の両立に使用できる「安心ストック休暇制度」導入
- 退職社員向けの再入社制度「サーモンチケット」導入
- 全社を対象とした不妊治療についての研修実施

コミュニティ創出事業

育児への不安や虐待などのリスクにつながる「孤独な子育て」をなくし、子育てを地域で支え合う社会の実現を目指します。

「孤独な子育て」をなくし、子育てを地域で支え合う社会の実現のため、東京都中央区勝どきの子育て支援施設「グロスリンクかちどき」を運営。屋内外に親子で楽しめるスペースを展開するほか、月に数回、地域の子育て支援団体や企業などと一緒にコラボイベントも開催しています。



その他関連団体との協働

- JaSCA (一般財団法人 日本病児保育協会)
- 医療法人社団ペルル
- 全国小規模保育協議会
- 全国医療的ケア児者支援協議会

＼ ご家族からの感謝の声 /

皆さんと歩んだ道のりが、たくさんの親子の笑顔につながっています。



障害児保育園
ヘレン利用者の声

いつきはどの保育園にも入れず、家に引きこもって一日中、つきっきりで見なければなりませんでした。毎日がとても忙しく、当時のことはあまり覚えていません。
ヘレンに入園したのは3歳のとき。元々ひょうきんなところはありませんでしたが、入園後はさらに明るくなりました。言葉で話すことはできませんが、ヘレンで遊んだり学んだりしたことをジェスチャーで教えてくれるんです。

家族とのコミュニケーションも増えて、いつきの人生が変わったんじゃないかと思っています。糖尿病があり、歩くことも難しいので、預かること自体が大変。今までは保育園に預けるという発想がなく、まさか働きに出られるようになるとは思っていなかったので、ヘレンには感謝しかありません。
親のように接し、いつきの新しい才能を見つけてくれて、本当にありがとうございました。



障害児訪問保育
アニー利用者の声

アニーに出会う前は、経鼻経管栄養で鼻からミルクを毎日4〜5時間おきに注入していて、子育てというより看護している状態でした。
人見知りがひどく、常に私が半径1m以内にならないと生活できなかったため、トイレまで一緒だったことも。アニーをスタートした当初はずっと泣いていて、大丈夫かな？と心配していましたが、ある時から本人も楽しくなってきたようで、そ

こから本当に生活が変わっていききました。「お返事ができる」と分かったときに、とてもびっくりしたんです。「むっちゃん」と呼ばれると返事をして、ちゃんと手を挙げて。文字が分かればこの子とお話できるんじゃないか、と思わせてくれた担任の先生に感謝しています。アニーを利用してきて嬉しかった。本当に良かったなと思っています。

赤ちゃん縁組で子どもを迎えた家族の声

「かわいい!」「よく来たね!」というのが、初めて病院で会ったときの率直な気持ちでした。小さくて細い体を抱くのが怖くて、最初のだっこは夫に譲りました。寝不足になるから寝たほうがいいですよ、とアドバイスをいただいたのにも関わらず、子どもを迎えた日は、ずっと子どもを見ていました。周囲の人に特別養子縁組で子どもを迎えたことを伝えると想像していたよりも、好意的な言葉をいただき、お祝いやおさがりもたくさんもらい、多くの方がこの子の存在を大切に考えているこ

とを実感しました。
成長するにつれて、意思疎通が少しずつできるようになり、かわいいと思うことがさらに増えてきました。声色や泣き方で、以前よりも何を求めているかわかりやすくなってきて、声も大きくなり成長を感じます。このまま元気に育ってほしいと思っています。
これからもこの子が笑顔でいられるように、ずっと大切に育てていきたいです。

2019年度の注力取組について

「医療的ケアシッター ナンシー」をサービスイン [9月予定]

- 「眠れない、目を離せない」——— 親が片時も子どもから離れられない
- 「勉強したいのにできない」——— 特別支援学校に通学できず、十分な教育が受けられない
- 「フルタイムで働けない」——— 特別支援学校に通っても、放課後の預け先がない

上記のような医療的ケア児とその家族を取り巻く問題を解決するために立ち上げる、日本初の医療的ケア児専門の訪問支援の仕組みです。9月より正式サービスインを予定しています。



- ① 親の「休みたい」を支える**
従来の2倍の長さの訪問ケア。一般の訪問看護に追加も可能。
- ② 医療的ケア児の「勉強したい」を支える**
週3回の訪問教育+週2回のナンシーで毎日の学習機会を提供。
- ③ 親の「働きたい」を支える**
ナンシーが特別支援学校にお迎え、親御さんのご帰宅までお家でお預かり。

ナンシーについて、詳しくはこちら ➔ <https://nancy.florence.or.jp>



「保育ソーシャルワーク」の取り組み

2018年度に初めて専任スタッフを配置した「保育ソーシャルワーク」。現在は仙台・東京で3名、保育ソーシャルワーカーが配置されています。保育園に通う園児の数が急増し、それぞれのご家庭の状況も多様化する中で、より丁寧にご家庭に寄り添うケアが必要になってきています。そこで、保育のプロである保育スタッフ

に加え、福祉の専門知識を備えた「保育ソーシャルワーカー」がチームとなり、個別にケアを行うとともに、必要に応じて適切な社会資源につなぐなどの支援を行っています。まずはフローレンス内での取り組みを通して実践・体系化を進めていき、全国で応用できるモデルの確立を目指します。

「こども宅食」事業部を設立！

2017年に始動した「こども宅食」プロジェクトでは、東京都文京区で、自治体とNPOなど7つの団体が協働し、経済的に厳しい子育て世帯に食品の配送を行ってきました。今後は、食品の配送にとどまらず、ご家庭に必要な支援を届けるためには何をすればいいのか、この事業を社会全体に広げていくためにはどのような

な制度、仕組みが必要なのかといった、より難易度の高い課題について取り組んでいきます。それに伴い、このプロジェクトを事業部化し、フローレンスとしてのコミットメントを高めていきます。12ページ「こども宅食事業部」紹介ページもぜひご覧ください。

障害児保育事業部
医療的ケアシッター
ナンシー担当
黒木健太

こども宅食事業部
マネージャー
今井峻介

ディレクター・新規事業
保育ソーシャルワーク担当
宮崎真理子

Staff interview
スタッフインタビュー

フローレンス15年目の挑戦

設立15周年を迎える今年、フローレンスでは新規事業である「医療的ケアシッター ナンシー」をサービスイン予定。また、2017年にスタートした「こども宅食」は今年度事業部化し、全国へと支援の波を広げていきます。フローレンスの運営する保育現場では、「保育ソーシャルワーカー」という福祉の専門知識を備えたスタッフを各園に配置する試みがスタートしました。各事業の担当者に話を聞きました。

近年、これらの新規事業に注力する背景は？

宮崎: 保育ソーシャルワークは、18年度に初めて専任のスタッフを置いて始めた事業です。保育園に通う子どもの割合はこの10年で約20%から約50%に増えています。国籍や家族構成、経済状況など、それぞれのご家庭の背景も多様化していて、個別に、より丁寧な関わり方が必要な場面が増えています。そこで、保育ソーシャルワーカーという福祉の専門スキルを持ったスタッフによる支援を届けようとしています。

今井: こども宅食は、立ち上げから3年目に入り、利用家庭のみなさまに安定的に食品

を届ける体制が整ってきました。これからは事業の「深化」を進める段階に入っていきます。「食品配送をきっかけにご家庭とつながり、適切な支援へとつなげる」というこども宅食の事業モデルを、文京区の取り組みを通じてより実効性のあるものにして、他地域の事業展開を進めるなどしてこのモデルを全国どこでも実施できる環境を整えていこうとしています。

黒木: フローレンスが障害児保育事業を始めて5年目、卒園していく子どもを見届けるなか、学齢期に達した医療的ケア児（以下、医ケア児）の預け先がないために親御さんが働けなくなる「医療的ケア児小1の壁」をはじめ、保育だけではなく障害児親子の

様々なニーズがわかってきました。「医療的ケアシッター ナンシー」では、学齢期も対象に様々な支援を行っていく予定です。

福祉領域に取り組む難しさは？

今井: これまでの福祉制度は、自分で助けを求めることができる人が自分で声を上げて支援を受ける、という原則に基づいて設計されていました。ただ、実際には心理的なハードルなど様々な理由で、困っていても自分から助けを求めることができない「声なき声」を抱えた方がいます。そういった方に対して、誰からも支援の手が届かないままになるということがないように、こちらか

ら積極的に「声なき声」を見つけて手を差し伸べる仕組みが今の社会には必要んじゃないかと思っています。こども宅食もそういう取組みの一つと言えます。

黒木：申請主義と言われてますね。新規事業「医療的ケアシッター ナンシー」も現在は複数の制度を使って成り立たせようとしています。しかし本来は、役所に申請できる人だけが支援を得られる、という状況は課題です。将来的には、利用者にハードルなく利用してもらえるサービスにすることが目標です。

宮崎：親子が抱える様々な課題については、よく川の流れに例えられますよね。課題を抱えたままだと、どんどん下流に流されていってしまう。流されて滝壺に落ちてしまう前に、川の上流でどう防ぐか、という考え方がこれまで以上に重要になってきていて、全国にも広がっていると思います。この例えで言うと、保育現場は川の上流にあります。下流に流れ落ちるまで手が差し伸べられにくい現在の社会の仕組みを変えるために、できることはたくさんあると思っています。

今井：医療の世界だと当たり前に行われていることですね。病気になる前に健康診断を

受けて、体の調子がこれ以上悪くならないようにする。福祉にはこの仕組みがまだ十分にありません。病気になる手前の「調子が悪い」状態で手を打つことができる仕組みを、こども宅食を通じて作ってあげたいと思います。

黒木：「予防医療」があるなら、「予防福祉」という言葉も必要ですね。

今井：ただ、子育てや経済的な困難など家庭に関する問題は、当事者が誰にも知られたくないと感じていることも多く、「声なき声」を拾ったあとにどうやって関わっていくか、というのは難しい問題だと感じています。
宮崎：私たちとしては、「大変だ」って感じている人がいたら、なんとかしたい。声を出せなくても、その大変さがなくなるように、親子の笑顔がさまたげられる何かがあるんだったら、何とかして取り除きたいという姿勢は変わりません。支援の対象者は今までの事業よりも少ないのですが、緊急度の高い事業が増えていると感じます。

フローレンスだからこその強みは？

宮崎：保育ソーシャルワークを実践するの

に、小規模な保育園というのは一つの強みだと思っています。より一人ひとり丁寧に、親子に関わることが出来ます。多様な保育現場を運営しているのもフローレンスの大きな特徴です。病児保育、障害児保育、集団保育もあればマンツーマン保育もありますし、クリニックも連携しています。子どもや家庭の状況にあわせて、私たちが適切な保育の場を選び、提供することができます。

今井：こども宅食が今までのフローレンスの事業と最も違うところは、福祉領域であるためにフローレンスの中だけで完結できないということです。支援は区が担当、運送はまた別の民間団体が担当…といった具合に、関わる組織、人がとても多いので、その中で一定の方向に向かって事業を進めていくのはとても難しいです。お金も人手も時間も膨大にかかりますが、親子のために事業を回すエネルギーを持ち続けられるというのは、フローレンスだからこそかなと思います。

黒木：国の制度がないところから日本にまだない支援のモデルを作るというのは障害児保育事業で培ってきたことです。ナン

シーは、これから現場で試行錯誤を重ねモデルを形にしていけますが、それを政策提言できるというのはフローレンスならではの強みですね。いくつかのご家庭を訪問する中で、「一緒に制度を変えていきましょう」と親御さんに言われることもあります。私たちの力で制度化できたら、どんどんほかの事業者さんに事業参入してもらい、全国に広がってほしいと思います。

背中を押してくれる存在は？

今井：こども宅食で取り扱うような社会課題は、まだ社会的に認知度が低いと思っているのですが、そんな中で寄付をしてくださる方がいるというのはとても心強いですし、社会全体でこの問題の解決に取り組んでいるのだと実感します。寄付者の方から「こんなことしかできなくてすみません」とメッセージを頂くことがあるのですが、プレーヤーとファンという関係ではなく、同じステージの上にいるクルー（乗組員）であり、仲間だと考えています。

黒木：私はフローレンスに入社する前は、寄

付をしていました。その時は「自分には寄付しかできない」と思っていました。今、自分が実際に仕事をしてみたら、寄付の重要性を実感しています。寄付という形で支援して下さる方たちがいなければ、取り組むことが出来なかった社会課題がたくさんあります。

宮崎：新規事業立ち上げの時に、本当に心が折れそうになったことがあったんです。そんな時、寄付者の方から「一緒に走らせてください」ってメッセージが届いたんです。その言葉を見て、もう一度立ち上がろうと思えました。何度背中を押されたかわかりません。

あたらしい事業を通じて、目指す社会とは？

黒木：医療的ケアがあるから諦める、我慢するということのない社会にしたいです。私は二人子どもがいますが、保育園の支えを頼りになんとか生活しています。でも医療的ケアがあると、子どもが健常であれば得られる支援を得ることができない。子どもに

医療的ケアがあっても、親も子も、子育てとともに何でも挑戦できる社会を目指しています。

今井：事業に取り組む中で感じるのですが、全国どこにでも「誰かの力になりたい」と思っている人は本当にたくさんいます。一方で、知られたいだけで「誰かに頼りたい」と思っている人もたくさんいます。こども宅食という事業を通じて、そういう人たちがつながっていくことがこの社会であたらしい社会になっていけばと思っています。

宮崎：保育園が親子の安心基地になってほしいなと思います。町にひとつそういう場所があって、困ったことがあってもそこに駆け込めば何とかかなる。そういう場所をフローレンスから作っていきたく思います。保育園では必ず家族とダイレクトに関わることができるからこそ、全国の保育園がソーシャルワークの機能を持てば、日本中に安心の場所を作ることが出来ます。そうすれば、助けの手の種類が増えて、誰が困っても、様々な形で手を差し伸べられる社会になる。私はそんな社会が見たいと思います。



フローレンス15年目の挑戦

＼ 応援メッセージ ／

フローレンスを様々な形で支援して下さる仲間の皆さんと共に、社会変革に取り組んでいます。



女優
小林綾子 さん

フローレンス15周年おめでとうございます。TV等で流れてくる子ども達の可哀想なニュースに、私も心を痛めています。障害児保育、病児保育、子どもの貧困、赤ちゃんの虐待など、今、世の中には様々な問題が溢れていますが、子ども達には、いつも皆平等に幸せであって欲しいと願っています。誰もが安心して子育てができ、子ども達の笑顔いっぱいの社会になりますよう、これからもフローレンスの事業を応援しています。子どもたちは私たちの宝物。子どもも親も安心して過ごせるように、皆で温かい手を差し伸べて寄り添ってまいりましょう。



ミステリー作家
葉真中顕 さん

作家デビューした当初から、ずっとフローレンスの活動を応援しています。自分自身の子育ての経験からも社会的な支えの大切さを痛感し、私にも何かできることがないか考え始めた頃、出会ったのがフローレンスのひとり親支援事業でした。その後も障害児保育や赤ちゃん縁組など、着実に活動の幅を広げていることを心強く思っています。課題解決のため現場で汗を掻くみなさんを尊敬せずにいられません。今後もさらなる活動の充実を期待しております。

合同会社 西友 企業コミュニケーション部 サステナビリティ 宇治田 彩 さん

フローレンスさんとは2011年より病児保育を始め、障害児保育、赤ちゃん縁組事業等、親子にかかわる様々な社会問題の解決と一緒に進めさせていただいています。これからもパイオニア精神の元、社会全体の問題意識を高めるため、絶えず情報発信をいただき、私たちだけではできないことを実際に形にしてください。フローレンスさんと一緒に、誰もがその人らしくいきいきと参画出来る社会をつくっていきたく思います。

日本オラクル株式会社 コーポレート・シチズンシップ 川向 緑 さん

オラクルのコーポレート・シチズンシップでは、より明るい未来のため、多様性の推進、次世代の育成を支援しています。フローレンスのビジョンに共感し、「子育てと仕事の両立」のために、なにかサポートできることはないかと双方向のダイアログを通して、さまざまな支援をさせていただいています。フローレンスとは率直な意見交換をしながら、資金援助にとどまらない多面的な支援のアイデアを共に考え、共に実行できるのがとてもありがたいです。これからも自社の社員ボランティアとも連携し、次世代のため、共に活動していきたいと考えています。

一般財団法人村上財団 代表理事 村上 絢 さん

フローレンスさんの思いと財団の「働く女性、そして母として、日本の未来をより豊かなものとするサポートがしたい」という思いが重なり応援をさせて頂いております。今後も、より多くの支援が継続的に届くようなきっかけになる支援を目指し、新たな問題解決にむけ意欲的に活動されるフローレンスさんを引き続きサポートしていきたいと考えております。

ジョンソン・エンド・ジョンソン 日本法人グループ JAPAN COMMUNITY IMPACT ご担当者

病児・障害児保育問題に関するニュースがきっかけで、2014年よりご縁が始まりました。障害児保育園ヘレンや写真をシェアして社会貢献するスマホアプリ「Donate a Photo」を通じたひとり親家庭の支援から始まり、現在は特別養子縁組の啓発活動や社員による手作りの寄贈や施設清掃などのボランティア活動を通じて支援しています。親が安心して働け、子どもが笑顔で暮らせる社会を共に目指したいと考えています。

コストコホールセールジャパン株式会社 ご担当者

コストコの社会貢献活動の指針は、「コストコホールセールジャパンの従業員が住み、働いている地域・近隣社会に貢献する」ことです。特に子どもに焦点をあて、社会貢献活動を行っています。その中で、フローレンスさんの使命「親子の笑顔をさまたげる社会問題を解決する」に共感し、2018年よりサポートを始めました。未来を担う子ども達とその家族が笑顔でいっぱいになる社会を築けるよう、継続的なサポートを行っていければと思います。

武田薬品工業株式会社 久司 美穂 さん

従業員の年次有給休暇取得率に応じて寄付を行う「年休取得で社会貢献!プログラム」を通じて、フローレンス様の取組みをサポートできることを大変うれしく思っております。このような活動を通じて、ひとりでも多くの子どもたちとご家族の笑顔があふれ、安心して子育てができる社会の実現を目指して、フローレンス様とともに、社会課題の解決に取り組んでいきたいと考えています。

フローレンスを支えてくださった企業・団体の皆さん [一部ご紹介]

A D A S T R I A

株式会社アダストリア

インヴァスト証券

インヴァスト証券株式会社



ウエルシアホールディングス



コストコホールセールジャパン株式会社



公益財団法人
小林製薬青い鳥財団



株式会社C-links



ジョンソン・エンド・ジョンソン
日本法人グループ



合同会社 西友



武田薬品工業株式会社



鳴海製陶株式会社



日本オラクル株式会社



株式会社 Brillar



マルホ株式会社



一般財団法人村上財団



YouthTheatreJapan株式会社



ユナイテッドアローズ
グリーンレーベル リラクシング



ユニリーバ・ジャパン



株式会社林間



ワークデイ株式会社



平成30年度・平成29年度
WAM助成
(独立行政法人福祉医療機構)

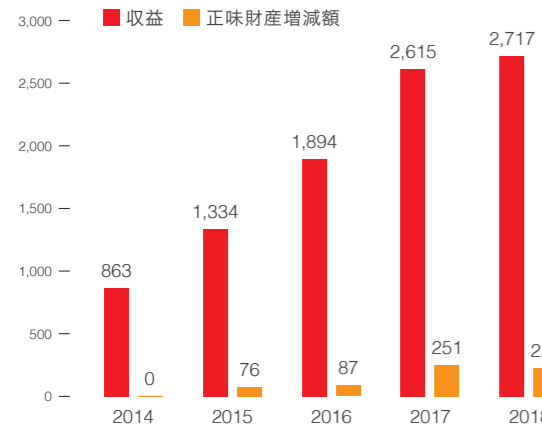
アーバン建物株式会社 / ICAP東短証券株式会社 / 株式会社アクトローカル / あずさ監査法人 / アスプラス株式会社 / アユワ株式会社 / 育英西中学校・高等学校 / イブソス株式会社 / 株式会社NIコンサルティング / MFSインベストメント・マネジメント株式会社 / 株式会社エム・マーケティング / エンパワー・サポート株式会社 / 株式会社大塚商会 / 鹿児島純心女子中・高等学校 / 株式会社カタログハウス / NPO法人キッズドア東北事業部 / グリーンロジック株式会社 / 株式会社CROSSY / K-IP ALLIANCE JAPAN / 株式会社the liorect / 株式会社サンゲツ / シェイクシャック / シングル10株式会社 / 株式会社Sports SNACKS / 株式会社スポーツビズ / SMARTSTREAM / スマイルング西川 / ソフトバンク株式会社 / 大日本住友製薬株式会社 / ダイアモンド社 / 有限会社高橋設備 / 株式会社チェスターマネジメント / 有限会社中央会計情報サービス / 長壽寺 / ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社 / ニットキュア / NOZZE / ハートコンサルティング / 株式会社BE PROUD / ファンタジーリゾート株式会社 / 株式会社不二興産 / 有限会社不二ネームプレート製作所 / 株式会社プラスアクティブ / 株式会社ホワイトオフィス / 前田建設工業株式会社 / 社員有志一同 / 株式会社マネーライフプランニング / 株式会社みずばやし薬局 (アサヒ薬局 竜腹寺店) / 株式会社ミセラボ / 社会福祉法人宮城県共同募金会 (平成30年度NHK歳末たすけあい) / 未来食堂 / メドライン・ジャパン合同会社 / 株式会社メリックス ※五十音順・敬称略

技術提供ほか、さまざまな形で支えてくださった企業・団体の皆さん

ウイングアーク1st株式会社 / グーグル合同会社 / サイボウズ株式会社 / 株式会社セールスフォース・ドットコム / Chatwork株式会社 / 日本マイクロソフト株式会社 / バイザー株式会社 / 株式会社バリューブックス / 株式会社PR TIMES / ヤフー株式会社 / 株式会社waja ※五十音順・敬称略

2018年度 財務報告

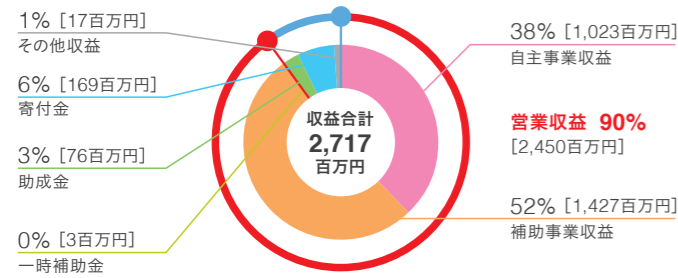
[収益・正味財産増減額] 単位:百万円



2018年度は収益が2,717百万円で、前年度比102百万円(3.9%)の増収、正味財産増加額(≒利益)は224百万円で、前年度比27百万円(10.7%)の減益でした。NPOは寄付者や会員に利益を分配することを禁止されているだけであって、利益を上げることが禁止されているわけではありません。私たちは社会課題解決のために、その利益を次年度以降の投資に使っていきます。

営業外収益 10%
[265百万円]

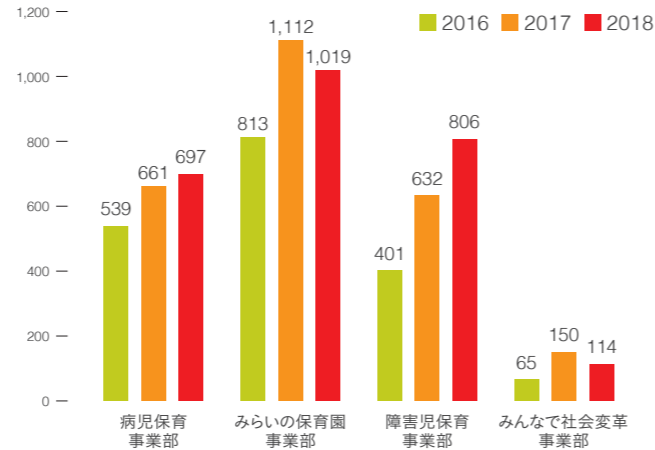
[収益内訳]



フローレンスの収益構成には2つの特徴があります。

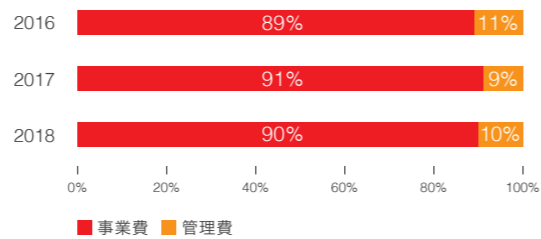
- ① **持続可能な事業運営**: フローレンスはサービス提供による事業収益をメインの収益としているため、持続可能性の高い事業運営を行っています。
- ② **寄付者からの支援**: フローレンスは事業収益をメインとしたソーシャルベンチャーでありながら、数多くの支援を受けながら事業を行っています。2018年度は1.7億円の寄付をいただくことができました。寄付金は、主に新規園の開設補助や事業投資などに使用し、社会課題解決に向けた推進の力とさせていただきます。たくさんのご支援ありがとうございました。

[主要事業部別収益] 単位:百万円



病児保育事業部: 主に利用会員数が6,604名から7,098名に増加したことにより、収益が36百万円増収
みらいの保育園事業部: 主に2017年度に新規園2園開園に対し2018年度は新規開園がなかったことによる開設補助金の減収に伴い92百万円減収
障害児保育事業部: 主に既存園及び居宅訪問型保育の利用実績の増加により、収益が173百万円増収
みんなで社会変革事業部: 遺贈寄付の受取により高収益であった2017年度と比べると2018年度は36百万円減収

[事業費比率]



経常費用のうち事業に使用された費用の割合を示す事業費比率は、2018年度90%でした。フローレンスでは事業費比率90%前後を目安として事業運営しております。

平成30年度 活動計算書	
科目	金額(千円)
I 経常収益	
1.受取寄付金	169,161
2.受取助成金等	1,507,149
3.事業収益	1,023,335
4.その他収益	17,256
経常収益計	2,716,900
II 経常費用	
1.事業費	2,268,395
2.管理費	239,858
経常費用計	2,508,253
当期経常増加額	208,647
III 経常外収入	
経常外収入計	71,657
IV 経常外費用	
経常外費用計	50,000
法人税、住民税及び事業税	6,042
当期正味財産増加額	224,263

平成30年度 貸借対照表	
科目	金額(千円)
I 資産の部	
1.流動資産	1,104,336
2.固定資産	454,314
資産合計	1,558,650
II 負債の部	
1.流動負債	329,672
2.固定負債	399,852
負債合計	729,524
III 正味財産の部	
正味財産合計	829,126
負債及び正味財産合計	1,558,650

データの前提

NPOはあくまでも「社会課題の解決」を存在意義とし、利益は継続的な活動をしていくための手段です。とはいえ責任を持って持続可能な運営を行うためには、企業と同様に財務健全性を度外視することはできません。フローレンスはそうした財務健全性を保つため、本ページにおいて財務情報の開示を行い、経営の透明性を高めてまいります。NPO会計基準に従っております。ご了承ください。

フローレンスの活動は、皆さんのご寄付に支えられています

例えば2000円の寄付で、
予期せぬ妊娠に困った女性1名の相談を1回受けることができます。



DVや犯罪被害などによる予期しない妊娠の末の虐待を防ぎ、赤ちゃんを望む夫婦に託すことができます。

例えば8400円の寄付で、
ひとり親家庭に病児保育を提供することができます。



ひとり親家庭のお子さん1人が1ヶ月間、病児保育を利用できます。

例えば95万円の寄付で、
障害児訪問保育の保育スタッフ1名の研修・育成を行うことができます。



1人の障害児が、新たに訪問型保育を受けることができます。

例えば5,000万円の寄付で
障害児保育園を1園、新しく開園することができます。



約15人の障害児が新たに施設型保育を受けることができます。

フローレンス マンスリーサポーターに参加しませんか?

1日あたり100円から、子育てを取り巻く社会問題の解決を支援できます。フローレンス マンスリーサポーターでは、フローレンスの活動全体を支援することができます。ご自身の都合にあわせて、月額のご寄付金額コースをお選びいただけます。

支援コース

- 3,000円/月
- 5,000円/月
- 10,000円/月
- 15,000円/月

寄付

事業による支援

- 政策化に向けたソーシャルアクション
- 親子の課題を解決する新規事業創出

申込み方法

- 1 下記URLから支援金額を選択
- 2 支払いに使用するカード情報を登録

ご利用できるお支払い方法 **JCB/VISA/Master/AMEX/Diners**

フローレンスは東京都の認定を受けた、認定NPO法人です。
確定申告を行うことで寄付金控除を受けることができ、寄付金額の最大約半額が戻ってきます。